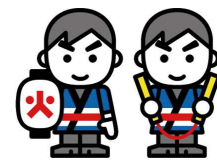




幼年消防クラブ 防火パレード



全国秋季火災予防運動（11/9～11/15）の一環として、上島町内各保育所の幼年消防クラブ員による防火パレードを行いました。

パレードでは、保育所の園児が拍子木を鳴らしながら、消防職員、消防団員と一緒に大きな声で「火の用心！！」と地域の皆さまに火災予防を呼びかけました。これからの季節は空気が乾燥し、枯れ草が増え、暖房器具の使用が増える時季を迎えるため、火の取り扱いには十分気を付けましょう。



● ヒートショックにご注意ください

ヒートショックとは、家の中の急激な温度差により血圧が大きく変動することで、失神や心筋梗塞、脳梗塞などを引き起こし、身体へ悪影響を及ぼすことです。暖かい居間から寒い浴室への移動、お湯から出るときなど、温度差が大きくなりやすいため、ヒートショックには注意が必要です。

【ヒートショックになりやすい人】

- 65歳以上（特に75歳以上）
- 以下の病歴がある
 - ・狭心症、心筋梗塞、脳出血、脳梗塞
- 以下の持病がある
 - ・不整脈、高血圧、糖尿病

○以下の習慣がある

- ・飲酒直後に入浴
- ・薬を飲んだ直後に入浴
- ・熱い風呂に好んで入浴
- ・食後すぐに入浴

令和7年10月出動件数（令和7年10月31日現在）

地区	弓削	生名	岩城	魚島	その他	合計	R7累計
火災	0	0	0	0	0	0	1
救急	14	6	8	0	0	28	336

【上島町消防署】 ☎77-4118
【上島町消防本部消防防災課】 ☎77-3166

共に守ろう、大切な人とふるさとを
消防団員絶賛募集中！

【ヒートショックの予防】

- 入浴についての注意点
 - ・入浴前と入浴後に水分を補給する
 - ・部屋間の温度差をなくす
 - ・お風呂の温度を41℃以下にする



機械油乳剤による
果樹類の害虫防除

機械油乳剤（マシン油乳剤）は、果樹類や庭木類のカイガラムシやハダニの越冬虫の防除として昔から使われてきました。本剤は、油膜で害虫類を窒息させて殺虫する作用から主に収穫後の冬季（休眠期）に散布することが推奨されています。今回は、機械油乳剤の効果的な使い方と使用上の注意について解説します。

(1) 機械油乳剤の特徴

機械油乳剤には、油分が95%の製品を精製マシン、97～98%の製品を高度精製マシンと呼ばれ、機械油乳剤95、トモノール、アタックオイル、ハーベストオイルなど製剤メーカーにより商品名が異なります。機械油乳剤は、昆虫の気門という呼吸器官を油膜で塞いで殺虫効果を発揮することから散布むらが無いよう丁寧に散布することが重要です。

(2) 機械油乳剤によるかんきつ防除

機械油乳剤は12月～3月（厳寒期除く）と6月（夏季）に散布ができますが、薬害発生の観点から散布時期が限定され、春から夏の防除にはアタックオイルなどの高度精製マシンの散布を推奨しています。散布時期や対象害虫により倍数が異なるので注意してください（表1参照）。

表1 機械油乳剤の適用表（抜粋）

薬剤名	対象作物	対象病害虫	散布時期	倍数
機械油乳剤95%	かんきつ	ヤノネカイガラムシ、その他カイガラムシ類、サビダニ、ハダニ類及びその越冬卵	冬期	30～45倍
	落葉果樹		夏期	100倍～200倍
機械油乳剤97%（アタックオイル）	かんきつ	カイガラムシ類、ハダニ類 ミカンハダニ	発芽前	16～24倍
			12月～3月	60倍～80倍
	かき、もも、くり	カイガラムシ類、ハダニ類	4月～10月	100倍～400倍
			発芽前	50倍

機械油乳剤は物理的な働きにより殺虫するため、一般の化学合成農薬

のように神経毒の殺虫剤に比べ薬剤抵抗性が発達しないので安定した殺虫効果が期待できます。ミカンハダニ（写真1）やカイガラムシ類の越冬虫と夏期のミカンハダニの発生始期（6月）に機械油乳剤を適期に散布することでかんきつ害虫の発生を低く抑えられると考えます。

(3) 機械油乳剤の使用上の注意

油分で葉や枝の表面を被覆するため、樹体への影響が見られます。散布後の葉には油浸が見られ、しばらくすると消失しますが、樹体への負担があるので冬季（12月～3月）の2回散布は絶対に行わないようにしてください。また、樹勢が極端に低下した樹への冬期散布は落葉を助長するので散布は控えてください。冬季散布は散布直後に寒波を受けると落葉などの影響が大きくなるので1月中旬～2月中旬頃の厳寒期の散布は控えてください。散布は、油分の伸びがよくなるので天気の良い暖かい日に散布してください。最近では越冬品種（2月～3月収穫）やレモンの実を春まで成らせる場合がありますが、果実がなっている場合、使用基準では散布前日数の制限はありませんが、成分が機械油ということから収穫後に散布してください。3月までに機械油乳剤が散布できなかった

場合は、発芽後の4月中旬～下旬に高度精製マシンの150倍を散布することでミカンハダニの冬季防除と同水準の効果が期待できます。また、カイガラムシの発生期では同時期散布の機械油乳剤にアプロード水和剤を混用するとカイガラムシの防除が可能となります。

(4) さいごに

機械油乳剤は薬剤抵抗性が発達しないという利点と虫体に確実にかかれば効果が安定していることからミカンハダニやカイガラムシの防除剤として上手に使用していただきたい農薬です。最近、かんきつ品種が多様化して冬季の散布時期が難しくなっていますが、害虫防除の基本薬剤として越冬虫や越冬卵の防除に有効に活用していただきたいと思います。



写真1 ミカンハダニ 成・幼虫と卵